

J R労働者が働きやすい環境づくりと社会に寄与する運動を作ろう！

# 東日本ユニオン 仙台地方本部

J R 東日本労働組合仙台地方本部 発行責任者 阿部 勉 編集責任者 教宣部  
仙台市宮城野区東六番丁31-2 NTT電話 022-221-7375 NTT FAX 022-221-7509  
J R 電話 031-3906 J R FAX 031-3909 メールアドレス unionsemdai@yahoo.co.jp



空蔵山からの日の出  
撮影：佐藤光雄さん

## 「未来をつかみ取る」

### 年頭に決意を語る

新年明けましておめでとうございます。輝ける新しい年をお迎えることとお慶び申し上げます。

年末年始輸送完遂のため、休まずお仕事をされました組合員とご家族の皆様には、あらためて敬意を表します。また、昨年8月の定期

大会で執行委員長に就任し、初めての組合業務に戸惑いながらも、地本執行委員と共に奮闘し、全力で走ってまいりました。これまでより御礼申し上げます。

昨年は、山形県内6分会が統合し「山形連合分会」を結成しました。将来的な組織の展望を現実的な視点でとらえ、当該分会同士が統合に向けた議論を重ね、職種や地域の枠組みを乗り越え結成されました。分会役員と組合員の連携と組合員間の親睦を密にし、迅速な指示情報の発信と活発な交流活動を推進し進め、「組織力の強化」に取り組んでいただきます。仙台地本は、自動車本部、各県3連合分会、山形

県協議会の5つの機関構成になります。地本は、各分会の活動を支持支援し、分会活動の活性化にむけた施策を、これまで以上に創り出して行きます。

安全は労使共通の課題です。「お客様と社員の死亡事故0」を目標に掲げ、協力会社を含めたすべての現場で二重三重の安全対策を



仙台地本阿部勉委員長

取っていると、残念ながら昨年社員死亡事故が発生しました。また、JR西日本管内では、12月11日、東海道新幹線「のぞみ34号」の台車に亀裂が発見されるといって極めて重大なインシデントが発生しました。

労働組合としてのチェック機能を更に強化し、現場の声を「安全のルー作り」の基本にしなければなりません。また、協力会社とそのまいた請負会社の労働者も、危険作業や危険な現場に物申す体制を、社内内で確立する必要があります。仙台地本は、今年も、安全の確立を最重要課題と位置付け、「危険の芽」を摘む作業を納得いくまで行い、現場第一線で働く労働者の代表として、会社に問題点を指摘し、改善案を提言してまいります。

2018春季生活闘争の取り組みは、労働者全体の賃金の底上げのための重要な闘いになります。安倍首相は3%の賃上げを経済界に要請したようでありますが、春闘を管制主導で行い、国民の目を支持率につなげ、いざれ憲法改正発議に進んでいく手段と見て間

違いありません。非正規労働者も含め、賃上げを実感出来る要求額を掲げ、労働組合が主体性をもって、満額回答実現のため闘わなければなりません。また、憲法改正を必ずや阻止し、安倍一強政治を終わらせるため、地域共闘との連携を強化する必要があります。

仙台地本には平成採用の組合員はいませんが、一人ひとりが豊富な経験と対応力・行動力を持っています。私たちの「未来」は待つのではなく、自ら掴み取るものです。全組合員が仙台地本の旗に結集し、諸課題解決に向け主体性と責任感を持って邁進することをお願いいたします。地方本部は、これからも、私たちの「未来」向かって、先頭を歩んで行きます。最後に、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

# 死亡事故0を誓う

## 羽越本線慰霊碑で献花

仙台地本は2017年12月25日で羽越本線特急いなほ脱線事故から13回忌を迎えるにあたり、12月18日に、阿部委員長が慰霊碑を訪れ、御亡くなりになられた御霊に、献花と心より哀悼の意を捧げるとともに、鉄道事故がもたらす悲惨さと責任の重さをあらためて胸



安全輸送を誓い、御霊に献花する仙台地本阿部委員長

に刻み、労働組合として、お客様の死亡事故・社員の死亡事故0を誓いました。

**5名の尊い命が犠牲に**

「この事故は、2005年12月25日、いなほ14号が現場付近で強風に煽られ脱線転覆、お客様5名の尊い命が失われ、31名の負傷者を出した自然災害に起因した事故である。事故の原因については航空鉄道事故調査委員会によって、瞬間風速40メートル程度の局所的な突風で車両が傾き脱線。予見はほぼ不可能であり、事故は避けられなかったものと結論づけられたが、お客様の死傷事故を労使が重く受け止め、以降の自然災害に対する対応へ

大きな影響を与えた事象である。

## 安全文化の創出を

JR東日本は防風柵、風速計の増設、運転規制の強化などと共に、世界初となる気象庁と連携したドップラーレイダーによる運転規制システムを昨年12月19日から導入している。しかしながら、事故発生から12年が経過しようやく全てのご遺族と

の示談成立が公表できる環境になったことから、お客様の死亡事故がもたらす悲惨な足跡を労使共に改めて心に刻まなければならぬ。自然災害に関わらず「お客様の死亡事故0」を実現するために、会社本位でない現場で働く労働者の声を生かすためにも、安全経協を含む労使が創り出す安全文化を実現しなければならぬ。

## エルダー制度で修正提案を受ける

本部は、12月5日、経営側から「エルダー社員の会社における業務範囲の拡大と労働条件の一部変更について」に関し、基本賃金の増額、エルダー管理手当の新設、エルダー社員調整特別金の増額、出向特別措置の支給等を含む修正提案を受けた

6月の提案以降、速やかなスケジュールの履行を求めてきたなかの提案は、社員に更なる戸惑いを与えるものであり、公平・公正な運用に向け取組みの強化が求められる。

## 行事日程

1月18日

▽エルダー制度学習会(山形テルサ)▽地本旗開き(Hイーストワゴン) 1月29日 ▽運転士協議会交流会(地本事務所ほか)

## 組合員の異動

12月31日(敬称略)

▼鈴木潤一(TTS仙台駅→退職)  
1月1日 ▼藤本幸司(山形駅→TTS山形駅)

## エルダー頑張る

山形駅で輸送係として構内での入換え業務を担当していた小嶋康治さんは、2016年3月、シもあり希望を出しているが、出向でエスシーエスピー(株) 一部の人に限定され、要望は実現できなかった。警備員としてエスパル仙台で経験を重ね、9月にエスパル山形に異動となった。受付、警備及びメトロポリタン山形の駐車場で誘導が主な業務となった。支えとなっている。



寒風の中、駐車場の誘導作業を行う小嶋さん

習熟速度や身体疲労に年齢を感するが、仲間の笑顔が大きな支えとなっている。